

2021年3月「日本バラッド協会」オンライン集會に於けるミニ・レクチャー草稿
英国バラッド詩アーカイブに収録されたキプリングのバラッド詩をすべて試訳し終えて

梶井 幹生

はじめにキプリングの略歴を箇条書きにしてみよう。

(年号あとの< >内は推定満年齢)

またキプリング原詩にあった初出年による仕分けもあわせて行った。

1865年<0>12月30日、インドのボンベイにアングロ・インディアン男子として生まれる。

1871-7<6-12> 三歳の妹アリスとともに英国サウス・シーのホロウエイ家に預けられる。「めえー、めえー黒い羊さん」(橋本訳参照)

1878-82<13-17>英国ユニテッド・サービス校に入学。インドで軍務につく少年の教育機関。『ストーキーとその仲間』参照。

1882<17>同校卒業。インドに帰る。

1882-7<17-23>ラホールの『シビル&ミリタリー・ガゼット』の編集記者となる。

1885<21>新聞の付録として、『お役所小唄』と、妹アリスをふくむ家族四人の文芸誌『カルテット』を出版。

「亡霊リキシャ」や「モロウビー・ジュークスの不思議な旅」を含む短編小説を書く。

1886<22>『お役所小唄』ロンドンで出版される。このころ『高原平話集』の短編が新聞の埋め草として出始める。

バラッド：桃色仮面、小役人、妻恋通信、船員宿フィッシャー亭のバラッド、首塚、ジョック・ギレスピーの陥落 以上6編『お役所小唄』所収。

1887<23>ラホールからアラハバードのパイオニア新聞社に移動。

1888<24>『高原平話集』の改訂増補版がボンベイとロンドンで出版。『三人の兵士』、『ウイー・ウイリー・ウインキー』などがインド鉄道図書シリーズとして出版。

ここまでインド在。インドへは再び帰らない。

1889<25>アイルランド系アメリカ人ヒル教授夫妻に伴い東洋へ「海のシルク・ロード」を旅する。版權を売り払い旅費を工面。自分では未知の新天地イギリスに新たな作家生活を求めていく。キプリングにとり一大転進の時代に入る。これからはフリーランスのパイオニア記者という資格である。

1891<27>短編小説集『人生の障害物』小泉八雲激賞。

バラッド：軽騎兵隊の生き残り

1892<28>1月10日キャロライン・パレスティアと結婚。アメリカ、カナダを經由して日本再訪。『兵舎のバラッド』(Methuen)初年で七千部売れる。

3月バンクーバー経由で日本再訪。12月29日長女ジョセフィン誕生。

バラッド：ダニー・ディーバー、ヘイタイサン、徴発、後家さん陛下の茶会、

東と西のバラッド、最後の殉死、親玉（ポー）ダ・ソーンのバラッド、辺境の牛盗人嘆き節、大英帝国文士三羽がらすの唄、戦艦クランパダウン号のバラッド、貨物船「ポリバー号」のバラッド、海からの贈り物、以上 12 篇『兵舎のバラッド』所収。

1896<32>詩集『七つの海』出版。

バラッド：正直者トマスの最後の唄、三艘のオットセイ密漁船の唄、海のおかみ三篇所収。

2月3日二女エルジー誕生。

1897<33>長男ジョン誕生。

1889<35>キプリング肺炎を病む。長女ジョセフィン死亡。キプリング大ショック。

1901<37> ビクトリア女王逝去。(生誕 1819 年)

1903<39>詩集『五つの国家』出版。

バラッド：金満家ダイヴィーズの和平、リモン、熊野郎の空涙の三篇所収。

1904<40>バラッド：自動車の唄

1907<42>ノーベル賞受賞。

1910<45>短編小説集『ごほうびと妖精たち』出版。

バラッド：マインピットの森のバラッド、エディの勤行

1914<49>第一次世界大戦勃発。キプリングの息子ジョン、アイルランド近衛軍に入隊。

ジョン負傷し、行方不明になったとの報伝わる。

1916<51>ダブリンでイースター蜂起。詩「息子ジャック」書く。

この詩の背景は、ドラマ『マイ・ボーイ・ジャック』を見るのがベストであろう。

BBC 2007 年 ポニーキャニオン PCBE73089

陸戦ではなく、戦で戦死したことになっている。息子の名ジョンをジャックにしたのは作爲的であろう。直接息子の死を悼む詩にしたくなかった。水兵は Jack Tar とも言う。

1917<52>ロシア革命。ロマノフ王朝崩壊。

1920<55>バラッド：英国流儀

1932<67>短編小説集『限界と再生』出版。

バラッド：天国のダイナ

1934<69>バラッド：カインとアベル

1935<70>バラッド：粗衣を縫ったマリア様

1936<71> 1月16日死去。ウェストミンスター寺院の詩人のコーナーに埋葬さる。

筆者がしばしばシェイクスピア、ディケンズと並び称せられる天才に接したのは小泉八雲との関連においてである。二人とも出発点はジャーナリストであり、かたや幼児時代は孤児同然の境遇に甘んじたアングロ・アイリッシュ、こなたアングロ・インディアンという差別のなかで青春時代をおくったボヘミアン。二人ともただ文筆の才能のみで這い上が

った出自を持っている。

小泉八雲がキプリングを知ったのは、日本にやってくる直前のことであった。もともと惚れっぽい性質だから自分にとり異国同然の英国に帰り、文名を上げ始めたキプリングにぞっこんとなった八雲は、東京大学の講師になって初めての授業にバラッドを取り上げ、そこでわざわざキプリングのバラッド詩、「正直者トマスの最後の唄」を講じている。

いわゆる伝承バラッドではなく、英国バラッド詩としてリストアップされたのは新機軸と言わねばならぬ。しかしバラッド詩はこの 32 編だけではない。ほかにもあるが、選からもれたのであろうか。それにしてもよくもまああれだけの verse を書いたものである。

Complete Verse Definitive Edition(Anchor)の目次 1 ページ一杯で 52 篇収録されており、11 ページをかけると 678 という数になる。長編小説はわりと少ないのでさほど苦にならないが、短編小説には山ほどの作品がある。これからキプリングでもやろうと思う人は大変な目にあうだろう。それだけでなく E. ウイルソンのように「もはやキプリングやラフカディオ・ハーンは読まれなくなった」と時代遅れのようにいわれるのだ。彼は死んでウェストミンスター寺院の詩人のコーナーに埋葬されたことは先に経歴の項に書いたが、『チャリング・クロス街 84 番地』の作者が、のちにロンドンに行ったとき、キプリングの墓碑銘がベンチにかくれて PLING 以下が見えなかった。作者は「時代の趨勢だわね」と慨嘆したとか。

「正直者トマスの最後の唄」が英国バラッド詩翻訳の初仕事であった。今から約 10 年前のことであった。続いて日本の横浜のことが出てくるとあって、「三艘のオットセイ密漁船の唄」だった。訳が面白いと褒められていい気なり、キプリングの生涯などぬきでアルファベット順に訳していった。いまから思うと汗顔ものだ。

まだまだ verse も短編小説も読まずに積読しているものが多い。死ぬまでに少しでも読んでおこうと思っている。

せめてキプリングの実人生に即したコメントをつけてミニ・レクチャーの代わりにしたいと思う。少々長くなると思うが我慢していただきたい。

初出年代順バラッドのコメント：一

()は英国バラッド詩アーカイブの順番。

01. (25) 桃色仮面(Pink Dominoes)

pink (特にきつね狩りをする人の) 深紅色の上着。sexual connotation はないよう。domino キリスト教苦行僧の法衣。舞踏会で用いるづきんと小仮面つき外衣。フランコ・ゼッフィレリの映画『ロミオとジュリエット』(1968)の舞踏会の場面を想起されたい。

バラッドといっても何も悲劇的な、血なまぐさいものばかりとは限らない。こんなユモラスなものから始めるのは良いことだ。キプリングはインド派遣の政治家や軍隊内部の腐

敗を面白おかしく茶化すこともやる。ちかごろ見たビリー・ワイルダーの映画『アパートの鍵貸します』(1960) そっくりである。ご主人からかまってもらえない奥方はチャンスさえあれば浮気に走るものらしい。旦那の将校はもみけしのため、部下を昇進させるのである。

軍隊の偉いさんも人間(メンシュ)なのだ。人間キプリングも矛盾が多い作家だが、そこがまた魅力的だ。

02. (22) 小役人 (Municipal)

象が暴走発作(マースト)を起こすと飼い主さえやられる。衆人傍觀のまま役目上暴走象を射殺する憂き目にあったオーウェルの「象を撃つ」を想起せしめる。これもビター・スウィートのバラッド。cf. musth=madness, distemper of elephant.

03. (9) 妻恋通信(A Code of Morals)

これも在インド英軍の上層部を揶揄するバラッド。新婚ほやほやのジャック・レモンのようなしがない兵士が前線からシャーリー・マクレーンのような若いきれいな新妻に上役の中将さんは名うての色事師だから気をつけろと回光通信(さてどんなものか?)で信号を送る。電話なら指名通信ができるが、こんなものはみんなにバレてしまう。キプリングはエピグラムに嘘パッチと断っている。妻恋は戦前の上原敏の流行歌のタイトル「妻恋道中」から借りた。

04. (3) 船宿フィッシャー亭のバラッド(The Ballad of Fisher's Boarding House)

ここにきてはじめてキプリングらしい物悲しいバラッド。まじめなデンマーク人の水夫が、アンという極道女の手管にかかり命を落とす話。海洋ものである。これはインタネットでフランク・キャブラの短い映像(1922)が見られる。

<https://www.imdb.com/title/tt0205957/>

05. (16) 首塚(The Grave of the Hundred Head)

いやはやむごたらしいバラッドである。たった一人のイギリス人中尉スミスの報復のため、インド傭兵の将校プラグ・テツワリが、100人ものビルマ蛮族を殺し塚を築いた。

06. (14) ジョック・ギレスピーの陥落(The Fall of Jock Gillespie)

ラホールにスコットランド出身の兵士がいたんだろう。ある晩にここにやにご機嫌でご帰還。どこかのよからぬ場所でよからぬ女を見つけてきたらしい。服に金髪がくっついていて、おしろいもついている。それを適当にごまかし、明日は指輪をもって教会だとき。変なのにつかまってイギリスに帰れなくなっても知らんよ。ボーダー・バラッドを模したインド軍隊物バラッド。

以上6編『お役所小唄』所収。

07. (18) 軽騎兵の生き残り(The Last of the Light Brigade) 1891年

1854年のクリミア戦争のロシアとの戦いで指揮系統のミスから玉砕同然のところからうじて生き残った20名の兵のことを、テニソンが詩に書いたが、これはキプリングの書き直しである。敗残兵の哀れさがよりよく切実に伝わってくる。キプリングの場合割を食うのはいつも無名戦士である。

08. (08) ダニー・ディーバー(Danny Deever)

すでに諸家の訳があるが、あえて日本の軍隊のような言葉で訳してみた。普段優しくしてくれた年上の兵が誤って仲間を殺したため絞首刑になるのを目撃した部下と上官との会話である。バラッド独特の問答形式になっている。

09. (30) ヘイタイサン ヘイタイサン(Soldier, Soldier)

ダニー・ディーバーと同じく問答形式のバラッドである。キプリングは昔聞いたわらべうたをおもいだしたのであろう。

‘Oh soldier, soldier will you marry me

With your musket fife and drum.

Oh no, sweet maid I cannot marry you

For I have no shoes to put on

And then she went

To her grandfather’s chest grandfather’s chest 大きな箱

And got him some shoes

Of the very very best,

And the soldier put them on..

最後に娘さんから贈りものをみんな取ってしまうと、自分には妻がいるから結婚できないと言ってしまふ。キプリングはこのバラッドのオチを、

「だからはっきり言うぜ 悲しみが冷めたら

おれじゃあだめかい あんたの新しい良い^{いい}人^{シト}に」

としている。現在でもアメリカで歌われているから、知っている方もいるだろう。

補遺

09B.ガンガ・ディン (Gunga Din)

汲み (bhisti) の名前である。革袋に入れた水をおかついで最前線までやってくる。大変危険な命を帯びている。特に彼も撃たれ、二人とも墮ちるであろう地獄行必至の戦死したイギリス兵 (ロンドンなまり) との会話をする、第5連は痛切である。この部分だけをここに引用したい。

‘E carried me away

To where a dooli lay,

An’ a bullet come an’ drilled the beggar clean.

'E put me safe inside,
An' just before 'e died,
"I 'ope you liked your drink" sez Gunga Din.
So I'll meet 'im later on
At the place where 'e is gone
Where it's always double drill and no canteen.
'E'll be squattin' on the coals
Givin' drink to poor damned souls,
An' I'll get a swig in hell from Gunga Din!
Yes, Din! Din! Din!
You Lazarushian-leather Gung Din!
Though I've belted you and flayed you,
By the livin' Gawd that made you,
You're a better man than I am, Gunga Din!

奴は担架のあるところに
俺を運んでくれたけど、
その時弾丸が飛んで来て奴の身体をぶちぬいた。
無事に担架に入れてから、
息を引き取るすぐ前に、
「水は美味かったかいね」といったは ガンガ デイン。
後ほど俺は彼奴の行った
そこで彼奴に会うだろう—
そこじゃ始終二重の調練、そこにゃ酒保などありゃしない。
奴は焰の上に座し、
哀れな亡者に水くれる、
俺にも地獄でぐいと一飲み飲ましてくんねえガンガ デイン！
うん、デイン！ デイン！ デイン！
俺はお前を殴ったが、
俺はお前を造った生ける神指し、
お前は俺よりいい奴と俺はいうんだ、ガンガ デイン！

(中村為治訳 梓書房 1929 下線私)

映像資料 レーザー・ディスク NEC アベニュー A78L-7017

ガンガ・デイン RKO 1939 ジョージ・スティーヴンス監督作品
ガンガ・デイン役は、サム・ジャッフェ(Sam Jaffe)
他若かりし頃のケーリー・グラント。

10. (21) 徴発(Loot)

「かっぱらい」と訳す人もいる。旧日本軍は「徴発」と言った。ようするに分捕りだろう。そんな不届き者もいたかもしれない。ビルマに転戦した筆者の伯父は曹長まで上がった人だから、中学生のころ暁の超特急吉岡隆徳と走ったこともあるスポーツマンがよもやそんなことはしまいと信じたい。日本軍は現地人を雇ったさいはきちんと日当を支払ったと聞いている。なかなかやんちゃなバラッドで、やるなら二人でやらんとだめ、二階の踊り場でごつんとやられるかもしれないとか、上官にバレたらどうする？ちゃんとお土産持参すれば許してもらえるなど。だからイギリス紳士の評論家はこのバラッドだけは嫌いだそう。

11. (32) 後家さん陛下の茶会(The Widow's Party)

キプリングが「後家さん」というときはきまってビクトリア女王のこと。揶揄しているのかわからない。でも本心からではないだろう。キプリングは兵士の忠義心はちゃんと留保している。政治家は遠慮なく批判するが、王室は絶対だ。フォークランド紛争のとき、エリザベス女王のためならいざ知らずあの鉄の女のために死ぬのだけはゴメンだと言ったイギリス将兵の言葉が忘れられない。キプリングのときから現代もジョンブル^{かたぎ}氣質は変わっていない。

12. (2) 東と西のバラッド(The Ballad of East and West)

キプリング好みのマッチョなバラッドである。もし東西世界の真に^{おとこぎ}侠気のある奴が手をくめば、生まれ、身分の隔てなど乗り越えて恒久的な平和を築くことも夢ではない、とグローバルな理想を謳ったバラッドだろう。最近読んだ橋本禎矩の『青い薔薇』では、さらに具体的な解釈をしている。インドの東にあるヒンドゥーのひ弱な知識人のインド政権樹立の夢より、アラブ的なアフガニスタンの蛮族と協力し、北からのスラブの野望をくじくほうがベターだという策略、言ってみればアラビアのロレンスみたいなことを考えているのだ。それはひょっとしてタリバンのような行き方をも是認することになる。本当に現代にも尾を引く危険な解釈につながりかねない。まあそこまで考えなくても、東西の融和の突破口を模索しての詩ぐらいでいいのではないか？キプリングがずっとインドにとどまっていず、ある種の脱皮を果たした東洋旅行の成果でもあるのだろう。cf. 映画『ガンジー』

13. (20) 最後の殉死(The Last Sutte)

インドの高貴な人の死後未亡人となった後室は、殉死する風習があった。イギリスインド政庁は法により固く禁じていたものの、そののちも禁を犯すものがあったという。このバラッドではどのような策略でそれを実行したか、興味が湧くことであろう。

14. (1) 親玉(ポー)ダ・ソーンのバラッド(The Ballad of Boh Da Thone)

なんともおもしろおかしく洒落のめしたビルマの蛮族の頭ダ・ソーンの末路。アイルランド兵がさんざん苦勞して追いかけた頭目はひょんなことで命を落とすハメになった。

あとは訳をご覧ください。

ここでまた映画の話になるが、ショーン・コネリー主演の映画『王になろうとした男』ジョン・ヒューストン監督作品 1975 年、米コンロンビア映画
DVD TSDD-10040 ソニー

の冒頭にキプリングの新聞社に乞食同然の男が訪ねてくるシーンがある。キプリング役の俳優クリストファー・プラマーが机に向かって何か執筆中であった。よく見るとそれは、本バラッドの最初の 3 行の途中までであった。

Boh Da Thone was a warrior bold:
His sword and his rifle were bossed with gold,
And the Peacock Banner his henchmen bore…

親玉ダ・ソーンは勇敢な野武士

その剣とライフルは金飾りがほどこされ
家来が捧げ持つ孔雀の軍旗は…

までであった。

乞食同然の男、すなわちカナーハンが持って帰ってきたのは、王になろうとした男ダニー・トラヴォポットの王冠を頂いたミイラのような生首だったので、同じような話で実に巧みな映画作りと改めて感心した。キプリングが何故この二人の野心家と関係があるかと言うと三人はフリー・メーソンで、兄弟の間柄であるからだ。二人の退役軍曹が冒険旅行に出発するとき。計画書というか契約書に連盟で署名しているからだ。このレクチャーでキプリングがフリー・メーソンであることを明記しているのはこれだけであるから、是非覚えておいてほしい。原作よりは映画の方がずっと詳しく、かりやすくなっている。

15. (17) 辺境の牛盗人（ぬすつと）嘆き節(Lament of the Border Cattle Thief)

英蘇国境をインド・アフガニスタン国境に置き換えたバラッド。牛泥棒で刑務所にいれられ刑死を待つあわれな男の嘆き節。キプリングは英国側を敵に見立てている。

16. (26) 大英帝国文士三羽がらすの唄(The Rhyme of the Three Captains)

キプリングはやられたら絶対やり返す。そんな執念深さがある。二回目の日本旅行のとき、横浜で自分の書いた本のアメリカ海賊版を見つけ、当時の著名英国作家三人（そのうち一人はトマス・ハーディ）に調定を頼んだが冷たい返事だったので、こんなバラッドを書いた。八つ当たりするくせは、どこかの大統領みたい。実際、キプリングはハーディ好き。（「エディの勤行」参照）

17. (7) 戦艦クランパダウン号のバラッド(The Ballad of the “Clamperdown”)

海洋もの。これは時代ものの戦艦でフランスの巡洋艦と戦うも、撃沈され、海兵隊が敵艦に乗り移り、相手を乗っ取るという勇ましいバラッド。ある特派員の手紙による全く

の作り話のバラッド。「講釈師見てきたような嘘を言い」さながら。

18. (5) 貨物船「ボリバー号」のバラッド(The Ballad of the “Bolivar”)

同じく海洋もの。

こんな悪辣な船主もいたんだ。オンボロ貨物船を積載オーバーで沈め。保険金をせめようとする輩が。でも7人がまんまとビスケー湾を乗り切り裏をかいてやったんだ。というような勇ましいバラッド。キプリングは常に弱いものの味方。

19. (15) 海からの贈り物(The Gift of the Sea)

海洋国イギリスには、こんな海の悲劇の詩はいくらかもある。古くは The Wife of Usher’s Well (Child#79), 新しくは Charles Kinsley の The Three Fishers はおなじみだろう。しんみり味わってほしい。

以上 11 篇『兵舎のバラッド』(1892)所収

20. (19) 正直者トマスの最後の唄 (The Last Rhyme of True Thomas)

筆者が以前からはまっていた、バラッド趣味と小泉八雲探求にキプリングを結びつけてくれた記念すべきバラッド詩にふれる機会が巡ってきた。1896 (明 29) 年 9 月から東京大学に出講直後バラッドに関する講義を始めた。そのとき八雲は「英国バラッド秀歌」題するレクチャーでこのバラッドを引用している。(『詩論』北星堂 pp.40-43)

1892 年、テニスンが死んだとき、当時 23 歳のキプリングが次期桂冠詩人とささやかれた。当時の宰相は自由党だったためか、保守党のキプリングは、野党党首から任命されのがいやだと憶測されている。だからこんな「正直者トマスよ まことにそちは ずけずけと物言うやつじゃ」のような口調となるのであろう。当時ジョージ五世とはまだツーカーの仲ではなかった。

21. (27) 三艘のオットセイ密漁船の唄(The Rhyme of the Three Sealers)

「日本に着いたら吉原の女たちに俺のため線香の一本も上げるよう伝えてくれ」で八雲が感涙にむせんだバラッドである。

三艘の密漁船とは、バルティック号、ストラルザンド号、ノーザンライト号。一番のワルはノーザンライト号。これはロシアの警備船を偽装していた。先着のバルティック号は先に獲物を取り、生皮を浜に並べていた。そこへロシアの警備船を偽装したノーザンライト号がやってきて獲物をちゃっかり頂いた。正体がバレた三隻が巴戦。あとは訳を参照されたい。

キプリングのロシア嫌いは若いころから抜けない。今でも北海道ではときどきロシアの警備船に日本の漁船が領海を侵犯したと言っては拿捕されているから、筆者もどうも好きになれない国だ。

22. 海のおかみ (29)

「海のおかみ」とはビクトリア女王のことである。「後家さん」と言ったときは女王を指すと思えばよい。伝承バラッドの「アッシュャーズ・ウェルのおかみ」を想起させられる内容のバラッド。

「ウヰンゾルの後家さん」ともいう。『ウヰンゾル』とはどこのことかとウインザー言い」

である。同じ年のプリンス・アルバートは42歳で死んでいるのに、長生きしたね。

キプリングは結構いいたいことを言っている。でもよく不敬罪に問われなかったものだ。

以上3篇『七つの海』(1896)所収

23. (24) 金満家ダイヴィースの和平(The Peace of Dives)

現在でもいるじゃない、こんなの「死の商人」というのだろう。

24. (28) リモン(Rimmon)

旧約聖書の異神リモンを持ち出し、バチ当たりなことを書いて、ボーア戦争で無駄に命をおとした哀れな兵卒のことを悼んだバラッド。キプリングの向こう見ずな性格をあらためて知る。

25. (31) 熊野郎の空涙(The Truce of the Bear)

ロシアの南下政策はつとに知られている。アフガニスタンは往古よりロシアの政策の要であり、イギリスは神経をとがらせてきた。ロンドンに「漫画ミュージアム」というのがあるようだが、そこにこんな熊野郎の漫画が展示されているとの話である。



以上3篇『五つの国家』(1903)所収

26. (6) 自動車の唄(The Ballad of the Cars) (1904)

キプリングはかなりのカーキチだったようだ。このバラッドは、自動車事故の現場検証に参考人としてよばれた各種の自動車が陳述する擬人法の形態をとっている。二人乗りのミニのところは、「～とかあ、～とかあ」と子ギャルことばで書いたら検討している人たちから爆笑されたらしい。ちなみにキプリングの愛車はロールスロイス。

27. (4) マインピットの森のバラッド(The Ballad of Minepit Shaw)

このごろすっかり新天地イギリスに落ち着いたキプリングは、児童文学のほうで腕をふるうようになった。ぐっとおとなしくなり、人が変わったみたいになっている。

妖精の世界の他愛のないバラッド。地主の荘園へ鹿盗みにはいるのはシェイクスピアの若いときの話だった。

28. (12) エデイの勤行(おつとめ)(Eddi's Service)

あまり檀家のいないお坊さん、クリスマス・イブになってもだれもお参りにこない。寒い氷雨の降る晩やっとやってきたのは、ロバと牡牛の二頭だけだった。まるでハーディのThe Oxenを読むような結構。

以上2篇『ごほうびと妖精たち』(1910)所収

29. (13) 英国流儀(The English Way)(1920)

「チェヴィオットの鹿狩り」(チャイルド #162) という英蘇国境バラッドを模した詩になっているが、殆ど何の関係もない。イギリス人というのは、実力や決意を内に秘め、謙譲の精神を発揮しおとなしい。だがいざとなると猛勇を発揮する。だから世界の国々よ、大変なことになるから気をつけたほうがよい、と自国の軍人のことを遠回しに賛美した内容になっている。こういう褒め方もあるもんだ。

30. (11) 天国のダイナ(Dinah in Heaven) 『限界と再生』(1932)

これも物語の中で歌われた詩。退役した軍人が建設業を立ち上げたものの戦時中の前線での塹壕掘の後遺症が出てノイローゼにかかる。部下がアバディーン・テリアの雌犬ダイナを貰って慰めようとする。ある日ダイナはうさぎの巣穴にもぐりこみ、木の根っこにからまり出られなくなる。飼い主は狭い穴にもぐり、ダイナを助け出す。そしてトラウマから回復する。詩は後日譚で、死んだダイナが天国に入る門のそとで、主人を待ち受け、やっ



と主人が階段を上ってくる足音を聞きつけ、「キャヒーン」と嬉しそうに鳴いてその胸に飛び込む。天国の門番のペテロが二人とも天国に入れてやる。彼らは夫婦同然の中なのだったのだ。キプリングは大の犬派であった。ユリシーズの愛犬アルゴスは20年も主人を待ち受け、主人と認めたとたん、一声弱々しく「クゥ」と鳴いて息絶えたという。最近、1954年制作のイタリア映画でこのシーンを再見した。(『ユリシーズ』カーク・ダグラス主演)

31. (8) カインとアベル(Cain and Abel)

「西部劇版」と副題がついている。だからリフレインもそんな風に訳してみた。

(1934)

32. (23) 粗衣(あらごろも)を縫(ぬ)ったマリアさま(Our Lady of the Sackcloth)

砂漠、らくだ、鈴の音など登場するので、メルヘンみたいだ。シルク・ロードを旅する感じがする。絲綢之路と古い文字が使いたくなる。

鈴とはらくだの鞍に敷くかけものの端についている鈴で、らくだのペース・メーカーにもなるのだろうか。

幾夜重ねて 砂漠を越えて
明日は あの娘の居る町へ
鈴が鳴る鳴る 駱駝の鈴が
思いださせて 風に鳴る (「三日月娘」 藪田義雄作詞、古関裕而作曲)

月の砂漠を はるばると

旅のらくだが ゆきました
金と銀との くらおいて
二つならんで ゆきました。(「月の砂漠」加藤まさお作詞、佐々木すぐる
る作詞)

これには鈴はないが、ゆっくりしたテンポで鈴の音が聴こえてくる。

マリア様やお坊様やそんな抹香臭い道具だてより、駱駝や砂漠のほうがが筆者の詩情を
そそる。(1935)

以上 32 篇のバラッドのコメント終わり。

比較的手ししやすいキプリング参考文献：一

長編小説の部

『少年キム』 斎藤兆史 (よしふみ) ちくま文庫

『ジャングル・ブック』 (抄) 田口俊樹 (としき) 新潮文庫

短篇小説の部

『キプリング短篇集』 橋本楨矩 (まきのり) 岩波文庫

『20 世紀イギリス短篇選』 (上) 「船路の果て」 (At the End of the Passage)

小野寺健 岩波文庫

英文版としてペンギン・クラシック ジャン・モンテフィオーリ編のもの。(重要な作品を
多く収録している)

韻文の部

残念ながらいまのところまとまった訳詩集はない。原文なら

Complete Verse Definitive Edition Anchor Books 一冊あればよい

また英国バラッド詩アーカイブでキプリングを検索すれば英和対訳が読める。

ついでながら、原詩による選集として注目すべきものに、T. S. エリオットの『精選キプリングの韻文』 (*A Choice of Kipling's Verse*. 1941, Faber) がある。その 123 篇の目次から英国バラッド詩アーカイブの 32 篇のバラッドと重複するものは、The Ballad of the Bolivar, The ballad of East and West, Danny Deever, The Widow's Party, の 4 篇である。ケンブリッジから三巻の詩集を出したトマス・ピニーは別途、*Rudyard Kipling 100 Poems Old and New* 2013 を出版しているが、それには Danny Deever 1 篇のみである。両者とも別にバラッド詩というジャンルにこだわって編纂したわけでもないので致し方ないであろう。

参考書は以下の三冊あればよい。

『ラドヤード・キプリング 作品と批評』 松柏社 2003

『キプリング 大英帝国の肖像』 彩流社 2005

橋本楨矩 『青い薔薇 キプリングとインド』 松柏社 2012

これは最新の橋本の力作で、第一部はキプリングのインド時代に的を絞った、「わたし」一人称の自伝形式になっている。キプリングの青年時代前期のことを知るには良い資料と

思う。結構悪所通いをしたり、阿片吸引して夢見心地になったり、負の面にも触れイメージが壊れると思う読者もいるだろう。イギリスに帰化(?)した後年のことは次に書くと言っているから、どう折り合いをつけるのか楽しみである。

その他、本稿を書くにあたって参考にした資料・研究書。

The Kipling Society のホーム・ページより DL した各詩の解説

<http://www.kiplingsociety.co.uk/poems.htm>

全訳 チャイルド・バラッド 第1巻 バラッド研究会 編訳

藪下卓郎・山中光義 監修

音羽書房鶴見書店 2005

Kipling's Japan Collected Writings Edited by Hugh Cortazzi & George Webb

Athlone 1988

翻訳 『キプリングの日本発見』加納孝代訳 中央公論新社 2002

『ヘレーンのロンドン日記』ヘレーン・ハンフ 榊井幹生訳 京都修学社 私家版 2004

原題 *The Duchess of Bloomsbury Street* By Helene Hanff

A Futura Book Macdonald & Company Publishers, 1981

戦死やあわれ 竹内浩三 小林察(さとる) [編]岩波現代文庫 2003

おわりに

本論中にも述べたとおり、小泉八雲からキプリングを知ったが、英国バラッド詩研究会の諸賢のお手伝いをするようになって、少しはキプリングの文学の楽しさを知ることができた。そうでなければ、知る機会など一生なかったことであろう。厚く御礼申し上げる次第である。

榊井 幹生

蛇足：一心に残ったキプリングの言葉

1. 子供の口が憎悪と絶望の苦い水を一度深く飲み込むと、この世のすべての愛をもってしてもその思い出は取り去ることはできない……(「めえー、めえー、黒い羊さん」)
2. どんなことがあろうとも、人は自分の身分、素性を越えるべきではない。白人は白人のもとへ、黒人は黒人のもとへ行くべきだ。(「領分をこえて」)
3. 女たちは男より恐ろしい(「種の雌」)
4. ボクはだれも殺しじゃない。ママだけだ。ママはぼくのために祈って、ボクのため悲しみで死んだのだ。(「戦没者墓碑銘」)
5. プロメテウスはゼウスから火を盗み

今も昔も神々は嫉妬深い

決して容赦せぬ ガンガ・ディンを地獄に墮とした(「戦没者墓碑銘」)

補遺 09B 参照

6. なぜ俺たちが戦死したのかと問う人あらば

答えよう。親父たちが嘘をついたからだ。(印刷されなかった「戦没者墓碑銘」より)

参照 「マイ・ボーイ・ジャック」

これで本当に、本当に終わりにしたいとおもいます。キプリングは戦争に行っていない。しかし、日本に私より少し年上の人で、実際に戦争に行き、24歳未満で戦死した詩人が書いた墓碑銘のような詩があります。その第一連を紹介したいとおもいます。

骨のうたう 竹内 浩三 (1921-1945) より

戦死やあわれ

兵隊の死ぬるやあわれ

とおい他国で ひょんと死ぬるや

だまって だれもいないところで

ひょんと死ぬるや

ふるさとの風や

こいびとの眼や

ひょんと消ゆるや

国のため

大君のため

死んでしまうや

その心や

ご清聴、いやご清読ありがとうございました。